



口腔内の有害歯科金属の除去によって、アレルギーが改善した症例。



金属イオンが溶出して黒く変色している歯肉。

金属イオンの溶出  
電流発生  
電磁波集積

# 歯科材料 **材質** **形状** が 身体に及ぼす悪影響を知る

有害ミネラル	測定値	参考値	危険値
鉛	0.21	0.15	0.50
銅	6.50	3.00	15.00
鉄	1.70	4.10	15.00
亜鉛	1.30	3.00	10.00
マンガン	0.08	0.10	0.20
カドミウム	0.00	0.00	0.01



「日常的にセットしている補綴物が、知らないうちに患者さんの身体に悪影響を及ぼしてしまっている可能性は、歯科医師の予想よりはるかに高いと思われる」と警鐘を鳴らす中垣氏。中垣氏は、患者さんの身体的不調を、咬合の見直しと補綴物の置換によって改善しているのですが、それらは、裏返せば歯科が作り出してしまっている不調ということになります。

患者さんの受けるダメージは、「元々の体質」「口腔内リスク」「環境リスク」といったさまざまな要因が絡み合い、個人差も大きいのですが、少なくとも口腔内リスクについては、歯科医師が知っておく必要があるのではないのでしょうか。

中垣氏に、「臨床的実感から、どのような歯科材料が身体に悪影響を及ぼすと感じているか」「どのように診断・治療しているか」等について伺いました。



大阪府開業  
**中垣直毅氏**  
Nakagaki Naoki



(左)心地良い雰囲気の診療室。天然木をふんだんに使い、身体に害のない接着剤を使用している。ユニットは7台(うち3台が完全個室)で、それぞれ大小の液晶モニターを設置。歯科の重要性を時間をかけて患者さんに説明している。  
 (右上)個室の待合室。至る所に窓があり、どの部屋にも自然光が入る。  
 (右下)医院外観。1階は連携先の内科クリニック。



## 歯科材料、咬合に着目した理由

### 自らが学生時代、頭痛と腰痛に悩まされた

当院には、一般的な歯科治療を目的とした患者さんだけでなく、頭痛、肩凝り、アレルギー症状などを主訴とした患者さんも多く来院しています。ここでは、「歯科材料と咬合を見直すことで、患者さんの全身的な疾患・不定愁訴を解消する治療」に絞ってお話しします。

そもそも、このような治療に着目したのは、私自身、歯科大学の学生時代、重度の頭痛と腰痛に悩まされたことが始まりです。ヘルニアの手術を医師から勧められた際、何とかして手術を避けようと、さまざまな本を読んで勉強するうち、歯が原因ではないかと思うようになったのです。

そして、さまざまな先生に会い、咬合と身体のひずみを整え、歯科材料を置き換えてもらうことで、身体の不調が解消されました。

そこで、開業前から、そのような治療ができる医院を作りたいと考えていたのです。そのためには学ばなければならないことが多く、開業前から現在に至るまで、材料や咬合、その他の勉強には、かなりの時間と費用を費やしました。



## 医師

中垣美紀子院長  
(内科・漢方内科・心療内科)

(左) 診療室1階部分にある、連携している「みきこクリニック」。(中) 中垣美紀子院長。(右) 排毒を促すために用いる点滴液。

## トレーナー

白石宏氏

(世界のトップスポーツトレーナー/  
鍼灸師：アメリカNo.1 鍼灸師に選ばれたこともある)



(左) 白石氏が整体や鍼灸を施す際に使っている整体用の施術室。日常的には、身体の調整やバイオレゾナンス・メソッド療法を行うために使用している。中垣氏は、白石氏と連携して、プロ野球選手や五輪選手などのトップアスリートの治療を行うことも。主な目的は、パフォーマンスの向上と、ケガの治療・予防で、通常より精度の高い咬合調整が求められる。(右) 波動を調整することで臓器の異常を改善したり、体内にたまった金属の排毒を促したり、自己免疫力を高めたりするバイオレゾナンス・メソッド療法(ドイツ発)に用いる「ポラー 1000」。



## 「医科・歯科」「東洋・西洋医学」連携 科にとらわれない治療を

当院は、内科クリニック(内科・漢方内科・心療内科)の医師と、世界のトップスポーツトレーナーとして著名な白石宏氏とともに、「医科・歯科」「西洋医学・東洋医学」の連携を行っています。

「皮膚のトラブルで内科に訪れた患者さんに対し、一般の治療をしても改善が見られない場合、歯科で歯をチェックする」「身体のゆがみや凝りなどが、整体や鍼灸で解消しない場合、口腔内の補綴物をチェックしてみる」「身体に悪影響を及ぼしていたと思われる補綴物を除去しても改善が見られない場合、毒素の排出を促すために漢方やサプリメントを使う、鍼治療を行う」など、協力し合っているのです。

現代医療では、完全に科を分けてしまうことによる弊害が大きいと考えています。

### 診断

## 脳反射―筋肉反射検査法 電流測定器を使用

初診の患者さんには、まず「皮膚のトラブルなら皮膚科に、腰痛なら整形外科に、頭痛なら内科や脳神経外科に行ってください。そこで改善しなかった場合に初めて歯科の問題を疑ってください」と伝えていま

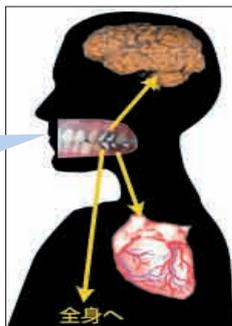


(上) 口腔内電流を測定することができる『オーラルテクター』と『ゼロテクター』。  
(左) 一時的に電流を除去することができる帯電除去棒(ガルバデトックス)。



心電図は、心臓の電気の図。脳波も、脳で発生する微弱な電流を測定し、身体の司令塔である脳の機能を判定するもの。脳死、心停止といった生死を判定する程重要な臓器は、電気の影響を受けている。

脳と心臓の間にある口腔内で、大きな電流が発生しているのに、「問題がない」といえるのだろうか。



す。最初から、「身体の問題は、すべて歯から」という期待を持たれた状態では、トラブルにつながりやすいと考えているからです。

歯科材料や咬合と身体の関係については、説明に時間がかかるので、診断に入る前にパワーポイントを使い、歯科衛生士に説明させています。

「首が回らない」「ひざが痛い」「腕のしびれが取れない」といった不定愁訴を抱える患者さんに対する診断は、主に脳反射―筋肉反射検査法によって原因を特定していきます。

ます。

その他、診断には、口腔内電流を測定することができる『オーラルテクター』や『ゼロテクター』も使います。これらは電流の測定だけでなく、一時的に歯にたまった電流を放電することができると、それにより患者さんの訴える身体症状が軽減すれば、補綴物の撤去前に、電流が原因であることがほぼ特定できます。

脳反射―筋肉反射検査法については、ドクター、患者さんを問わず、懐疑的な意見を持つ方も多いと思いますが、結局は、結

果を出す(患者さんの主訴を改善する)ことで納得が得られるものと考えています。

**身体に悪影響を及ぼす材料は?**

### 「ノンメタルなら安全」?

現在、メタルの補綴物が身体に与える影響が世界的に問題視される傾向にある中で、日本でそのような声をあまり聞かないことには違和感を覚えます。例えば、

- ・アマルガム(水銀が50%含まれている)
- ・金銀パラジウム合金(リンパ球幼若化テストという金属アレルギー検査では、約半数の人に陽性反応が出る)

・ニッケル・クロム(国際がん研究機関の発がん性が認められる物質の一覧に含まれる)

といった材料がいまだに保険収載されているのには疑問を感じます。

最近、電磁波過敏症の人が増えていきます。慢性疲労症候群の患者さんのほとんどは、電磁波過敏症によるものだと警告している医師もいます。この電磁波を集めるアンテナの役割を果たしてしまうのが、金銀パラジウム合金、アマルガム、ニッケル・クロム、銀合金、金合金、チタンなどです。

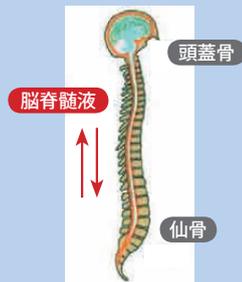
これらに対し、セラミックなどノンメタルの補綴物は「審美的に優れているし、身体にも優しい(特に金属アレルギーには有効)」と支持される傾向にあります。当院

## 全身に影響を及ぼすと考えられる歯科的要素

### ■ 咬合

- ・咬合（中心位、前方運動、左右側方運動の接触、歯や冠の形態、隣在歯のコンタクトの強弱、義歯床の外形、親知らずなど）のズレが生じることで、頭蓋骨や首や背骨、仙骨や骨盤がひずみ、体に負荷がかかる。それが血行障害や神経障害なども引き起こすことにつながる。

- ・歯の連結は、脳脊髄の流れを妨げるので要注意。



**注意!**



咬合調整の前に、必ず身体の調整を行う必要がある。支持骨を調整し、身体の重心のゆがみを改善するだけで、顎関節や咬合の異常、歯の痛みといった口腔内症状や、不定愁訴が改善する例はかなり多い。



### ■ 歯科材料

#### ① 金属イオンの溶出

内臓に沈着 → 臓器機能障害（脳、肝、腎など）、アレルギー、免疫力の低下、老化などが起こる。  
金属イオンは脂肪にたまりやすい特徴がある。

#### ② 電流発生

電気が発生しやすい材料（特に金属）が入っていることで、身体に悪影響を及ぼしてしまう。

#### ③ 電磁波集積

アンテナの役割を果たす材料（特に金属）が、周囲の電磁波を自分の身体に集めてしまい、電磁波障害を起こす。

### ■ 口腔内細菌

歯周病原菌が、全身疾患（糖尿病、動脈硬化、高血圧、心臓病、肺炎、早産など）と関係がある。

### ■ 病変

根尖病巣、歯肉の炎症、智歯周囲炎、感染歯質、ボーン・キャビティーなど。

中垣氏の今までの治療経験からも、歯科材料による身体への影響には個人差があり、「これは絶対に危険」「これは安心」ということは一概にいえないという。一般に言われているように、メタル系だけがトラブルの元になるわけではなく、ノンメタルの補綴物を除去して改善する例も少なくない。劣化したレジンも要注意！



化学物質過敏症の患者さんも来院するため、開閉可能な窓を多く設け、常に自然の空気を取り入れている。



(左) 建物の基礎工事の際、診療室の周りに銅線を張り巡らせ、本格的なアースを行った。「電磁波対策」「スタッフの健康保全」「診療精度を上げる」「効果的にバイオレゾナンス・メソッド療法を行う」といった目的で、ドイツ・レヨネックス社の指示に従って行った。  
(下) 建物の周りに張り巡らせた銅線。



メタル、ノンメタルの歯科材料のサンプル。個々の患者さんとごに合ったものを診断し、最終的には患者さんの要望等を聞きながら材料を決める。



「パラジウムフリー」をうたった、海外メーカーの日本向けのパンフレット。海外では、補綴物における「パラジウムフリー」への配慮が高いことがわかる。18Kや20Kの多くは、パラジウムや銅、銀が含まれているので要注意。



今回あなたの治療に使用した歯科用合金は……  
ドイツ/ヘレウスクルツァー社製バイオメタルシリーズ  
ヘレウスクルツァー社は、歯科医療先進国ドイツで、150年以上の歴史を持つ歯科用器材メーカーです。

<input type="checkbox"/> バイオハラドールN	金86.2% 白金11.5% ルテチウム0.4% その他1.9%(パラジウムフリー)
<input type="checkbox"/> バイオハラドールSG	金86.7% 白金9.5% ロジウム0.2% その他3.6%(パラジウムフリー)

審美的な淡黄色。  
ゴージャスな内容成分 金77.7%、プラチナ19.5%  
しかも、銅、パラジウムフリーで、高い生体親和性を有す。

Net 10g  
金  
白金  
イリジウム  
その他

色:黄金色 金白金族元素:97.3%

でもセラミックやジルコニアによるノンメタル治療は行っています。  
しかし、削る量も金属の方が断然少なく済む上、強度や精度の面で優れた利点もたくさんあり、また臨床経験上、高カラット金プラチナ合金(ただし、純度が低下すると問題が出やすいので、信頼できる技工所の確保が必要になる)のように、身体に優しい金属もあると感じています。つまり、メタルかノンメタルかということが指標になるようには思えません。

実際、身体の不調を訴える患者さんの中には、ノンメタルを除去したところ、症状が改善した人もいました。色調を出すため、あるいは強度や精度を出すための成分が、影響を及ぼしているのかもしれない。合着用セメントなどが問題になる場合もあります。  
また、セラミックなどは、安定した物質で、審美的に優れているといったメリットがある反面、割れやすく、フィットが悪くなることで隙間が生じやすくなるデメリット

ともあります。  
最終的には、費用の問題、審美的な問題なども含め、個々の患者さんと材料の相性を脳反射・筋肉反射検査法などで診ながら、それぞれの利点・欠点を説明し、話し合うことになるのです。  
結論からいえば、メタルだけでなく、どの材料にも多かれ少なかれリスクはあります。自分の天然の歯質に優る歯科材料はありません。そのため、「予防」の重要性についても患者さんに説くようにしています。

## 患者さんごとの個人差

## 元々の体質や、置かれていた環境も関連

言うまでもなく、たとえ同じ材料が入っていたとしても、それらの人が皆、全身的な疾患・不定愁訴に悩まされるわけではありません。元々の体質、置かれていた環境など、複雑な要因が絡まって症状として現れているのだと思います。

例えば、高圧線の近くの地域からは、電磁波過敏症と思われる症状を訴える患者さんが多く来院します。携帯電話やパソコンの使用ももちろん影響します。今後ますます

す、電磁波過敏症の患者さんは増えていくかもしれません。

いずれにしても、合っていないと思われる歯科材料（メタル系が多いが、ノンメタルの場合もある）を除去することによって、多くの患者さんが改善、もしくは完治するのですから、歯科材料と電磁波過敏症とが関係しているということは否定できないと思います。

ひとついえるのは、歯科由来で身体に不調を来している（誘発されている）人は、歯科医師が一般的に考えているほど少ないということですが、

歯科材料を除去する、義歯床の形態を修

正する、連結された歯を切り離すといった治療を行うことで、「首の張りが瞬時に取れた」「右手のしびれがなくなった」というように、長年苦しんできた不定愁訴が解消される患者さんが多いことには、本当に驚かされます。もちろん、時間がかかる方もいますし、体内に蓄積された材料の排出を助けるため、漢方やサプリメント、点滴を用いることもあります。

これはつまり、歯科が多くの不調を生み出してきたという事実を示すものと思われまます。今後、少しでも、患者さんの全身の不調と歯科とを結び付けて考える歯科医療が発展することを望みます。

凝りがうそのように取れました。歯以外の他のもの、無農薬野菜とか、発癌性物質の少ない食品、アルミ鍋を使用しない等には気を付けていたのですが、歯の詰め物がこれ程影響しているとは思いませんでした。身体に関するものの考え方が変わりました。

女性 アマルガムとパラジウム除去  
33歳

右上の6番のアマルガム除去：首から腰にかけてあった不快感が除去してもらった直後からクリアーに、それに目のショボショボする感じもなくなりました。

右下5番のパラジウムの除去：右の股関節が除去前のテストと比べて自分でもわかるくらい柔らかくなった。

男性 パラジウム除去  
28歳

左奥の銀歯を除去したら、すぐに慢性的な肩凝りがなくなった。3年前に他の歯医者で治療してから慢性的な肩凝りになり、ひどい時は肩甲骨付近までしびれるような状態までに……。まさか銀歯を外しただけで、悩まされていた肩凝りが一瞬でなくなるとは思いませんでした。

女性 レジン除去  
55歳

左首の凝りが数年以来取れずにいました。プラスチックの詰め物を取ったすぐ後、そこの凝りが取れました。肩も軽くなり頭がすっきりしました。思いもよらない経験をしました。もっといろいろな方のつらさが取れると良いです。

歯科材料の撤去 ➡ 全身的疾患・不定愁訴の改善例 (患者さんのアンケートより)

男性  
29 歳

セラミック除去

顎が絶えずコキコキ鳴り、痛む。顎の筋肉から首、肩まで張りがある。腰も痛む。顎の痛みから絶えず顎を動かさずにはられない。眠っている時分、噛み締めている。噛み締めから翌朝がものすごく疲れる。

総合医療センターで顎関節症と判明。カイロ、針、整体、整骨院と通う。2年半前歯医者で咬み合わせ治療を行うが改善せず。逆に体調不良になり、現在に至る。

(咬合治療後)顎が楽になった。体が軽くなった(体重が軽くなったわけではない)。眠っている時分の噛み締めがなくなった。アトピーも一時的にきつく出てきたが、その後は改善し、背中などは母が驚いている。ノンメタルを入れ(前歯科で)、今から思えばやばいと感じていた。(体調不良になって)その後、中垣先生に金属性の詰め物を詰めていただき、体調がどんどん良くなった。ノンメタルを入れてから肩がよく凝るようになったという身近な人の話を聞き、また自分自身の体験からノンメタルを勧める歯科医院は、本当に大丈夫なのか?と思うようになった。

女性  
43 歳

セラミック除去

最初の右側上下の金属を外し、体をチェックしていただいた時には、少し肩、首が軽くなったかなという程度でしたが、左奥に入っていたセラミック材料を外していただいた時には、その瞬間にはっきりわかるくらい、顔のこわばりが柔らかくなりました。驚きました。

夜間の歯ぎしりが激しく、日中も歯を食いしばっていることが多いので歯の咬み合わせが合っていないのだと思っていて、治療もそこを改善するのに「ついでに」体にいいとされている高カラット金プラチナ合金に「どうせなら」変えていだろうという感じで考えていましたが、口の中に入っていた材料そのものがこんなに体のこわばりに影響を与えているとは全く考えていませんでしたので、驚くと同時に教えていただいたことに大変感謝しています。

スウェーデンに戻ったら、スウェーデン人にも中垣歯科でしていただいた治療のことをみんなに自慢したいと思います。

男性  
35 歳

セラミック除去

金属を外した直後、それまで階段の昇降に手すりが必要だったのが、手すりなしで昇降可能になりました。また首と右腕のしびれが消えました。さらにノンメタルを除去すると、おじぎやそりかえりの時の腰の痛みが消え、ヒザが悪い方の足での片足の屈伸ができるようになりました。20年以上患い続けた腰やヒザの痛みが、歯の治療で改善したことに驚いています。体調不良の元の大半は歯にあるんだと実感しました。今まで野球観戦等で長時間じっと座っていると必ず首と腕がしびれていたのが、今はありません。

女性  
63 歳

アマルガム除去

右の顎の下、首すじが凝っているような感じで痛かったのですが、歯の詰め物(アマルガム)を数カ所、除去してもらった瞬間から、その痛みや